

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.2 構法と工法	細 目	正答肢	4
問題 I-1 RC造の構造形式の特性に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。					<b>【出典】</b> 建築積算士ガイドブック  1 P265 11.2 (表11.1) 11行 2 P265 11.2 (表11.1) 3行 3 P265 11.2 (表11.1) 10行 4 P265 11.2 (表11.1) 4行	
<b>【解答肢】</b>  1 現場加工がほとんどで多くの人員が必要となり、工期も長くなるため施工性は良くない。 2 コンクリートと鉄筋を一体とした架構である。 3 耐火性は良好である。 4 コンクリートは引張力、鉄筋は圧縮力を負担する。					<b>【解説】</b>  コンクリートは圧縮力、鉄筋は引張力を負担する。  1 記載通り。  2 記載通り。  3 記載通り。	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	1
問題 I-2 工期・工程に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。					<b>【出典】</b> 建築積算士ガイドブック  1 P267 11.3.1                      6行 2 P267 11.3.1                      7行 3 P267 11.3.1                      8行 4 P267 11.3.1                      10行	
<b>【解答肢】</b>  1 工期とは工事の見積から竣工・引渡しまでの全工事期間のことを指す。 2 工程とは各々の工事を計画的、能率的、経済的におこなうための作業手順のことをいう。 3 工程計画は設計図書にもとづいた建物完成のための作業手順と日程を立案する大変重要な作業である。 4 工程表とは、工程計画にしたがい施工手順、期間、他の関連個別工事との関係などを表した表である。					<b>【解説】</b>  工期とは工事の着工から竣工・引渡しまでの全工事期間のことである。  2 記載通り。  3 記載通り。  4 記載通り。	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	2
<p>問題 I-3 諸官庁等への届出書類名と届出先の次の組合せのうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P271 11.3.2 (3) 表11.2 8行 2 P271 11.3.2 (3) 表11.2 13行 3 P271 11.3.2 (3) 表11.2 35行 4 P271 11.3.2 (3) 表11.2 9行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 開発行為許可申請書 — 都道府県知事</p> <p>2 工事施工者届 — 厚生労働省</p> <p>3 道路使用許可申請書 — 所轄警察署</p> <p>4 確認申請書 — 都道府県市区町村</p>					<p>【解説】</p> <p>表11.2 諸管庁への届出書類チェックリスト例 工事施工者届 — 確認済証交付機関である。</p> <p>1 記載通り。</p> <p>3 記載通り。</p> <p>4 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	1												
<p>問題 I-4 設備工事での重量大型機器に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1 P283</td> <td style="width: 40%;">11.3.8 (3) ㉓</td> <td style="width: 55%;">記載なし</td> </tr> <tr> <td>2 P283</td> <td>11.3.8 (3) ㉔</td> <td>25行</td> </tr> <tr> <td>3 P283</td> <td>11.3.8 (3) ㉕</td> <td>25行</td> </tr> <tr> <td>4 P283</td> <td>11.3.8 (3) ㉖</td> <td>25行</td> </tr> </table>		1 P283	11.3.8 (3) ㉓	記載なし	2 P283	11.3.8 (3) ㉔	25行	3 P283	11.3.8 (3) ㉕	25行	4 P283	11.3.8 (3) ㉖	25行
1 P283	11.3.8 (3) ㉓	記載なし																
2 P283	11.3.8 (3) ㉔	25行																
3 P283	11.3.8 (3) ㉕	25行																
4 P283	11.3.8 (3) ㉖	25行																
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 壁掛けエアコンは、重量大型機器として扱われる。</li> <li>2 ボイラーは、重量大型機器として扱われる。</li> <li>3 キュービクルは、重量大型機器として扱われる。</li> <li>4 変圧器・発電機は、重量大型機器として扱われる。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>壁掛けエアコンは、重量大型機器として扱われることはない。</p> <p>2 記載通り。</p> <p>3 記載通り。</p> <p>4 記載通り。</p>													

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.4 特殊工法・新技術	細 目	正答肢	3
問題 I-5 CFT（コンクリート充填鋼管造）に関する記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。					<b>【出典】</b> 建築積算士ガイドブック  1 P290 11.4.2 (1) 27行 2 P290 11.4.2 (1) 32行 3 P290 11.4.2 (1) 36行 4 P290 11.4.2 (1) 29行	
<b>【解答肢】</b>  1 CFT造は、建設大臣認定（当時）を取得したことにより新しい構造形式として実用化した。  2 CFT造は、鋼管とコンクリートの長所を有効に活用することができ、耐力、剛性、靱性に優れた部材を経済的に構築することができる。  3 CFT造は、コンクリート充填性という施工性の問題があり、高層建築物には適さない。  4 CFT造は、RC造、S造、SRC造に続く第四の構造といわれている。					<b>【解説】</b>  CFT造は、耐力、剛性、靱性に優れた部材を経済的に構築することにより、低層から高層までの幅広い建築物の柱部材として適用されている。  1 記載通り。          2 記載通り。          4 記載通り。	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.4 特殊工法・新技術	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-6 制振構造の概要と特徴に関する記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P292 11.4.3 (1) 表11.3 16行 2 P292 11.4.3 (1) 表11.3 19行 3 P292 11.4.3 (1) 表11.3 17行 4 P292 11.4.3 (1) 表11.3 13行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 制振構造とは、揺れのエネルギーを吸収する制振部材または制振装置を建築物に装着して揺れを低減しようとする構造である。</p> <p>2 制振装置としては、建築物頂部に設置して主に風揺れ低減に採用されているTMD、ATMDなどがある。</p> <p>3 制振部材としては、極低降伏点鋼を用いた間柱、オイルダンパー、粘性壁など耐風・耐震ともに各種の構法が実施されている。</p> <p>4 制振構造とは、適切な部材とその配置により強度とねばり（変形能力）で地震に抵抗する構造である。</p>					<p>【解説】</p> <p>適切な部材とその配置により強度とねばり（変形能力）で地震に抵抗する構造は耐震構造の記述である。</p> <p>1 記載通り。</p> <p>2 記載通り。</p> <p>3 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	1 建築積算とは	項 目	1.3 建築積算の役割	細 目	正答肢	1																
<p>問題 I-7 建築積算の役割に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 P4</td> <td style="width: 10%;">1.3</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>2 P4</td> <td>1.3</td> <td></td> <td style="text-align: right;">27行</td> </tr> <tr> <td>3 P4</td> <td>1.3</td> <td></td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> <tr> <td>4 P4</td> <td>1.3</td> <td></td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> </table>		1 P4	1.3		3行	2 P4	1.3		27行	3 P4	1.3		21行	4 P4	1.3		31行
1 P4	1.3		3行																			
2 P4	1.3		27行																			
3 P4	1.3		21行																			
4 P4	1.3		31行																			
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 建築生産活動は、設計、建築積算、構造計算のトライアングルで成り立っている。</li> <li>2 建築積算は建築生産活動を支える基本的な柱として、コストの透明性を高める時代を迎えている。</li> <li>3 建築生産活動は大きな資金を必要とする経済活動であり、建築積算の果たす役割は重要である。</li> <li>4 建築積算は、コストマネジメントによって建築産業の健全さを高める役割が期待されている。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>建築生産活動は、設計、施工、建築積算のトライアングルで成り立っている。 構造計算は、設計の一部である。</p> <p>2. 新規作成、ガイドブック文面記載通り</p> <p>3. 記載通り</p> <p>4. 記載通り</p>																	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	2 建設産業について	項 目	2.1 建設産業の特徴	細 目	正答肢	3												
<p>問題 I-8 建設産業に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 P10</td> <td style="width: 50%;">2.1.1</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">31行</td> </tr> <tr> <td>2 P11</td> <td>2.1.1</td> <td style="text-align: right;">2行</td> </tr> <tr> <td>3 P11</td> <td>2.1.3</td> <td style="text-align: right;">28行</td> </tr> <tr> <td>4 P14</td> <td>2.2.3</td> <td style="text-align: right;">14行</td> </tr> </table>		1 P10	2.1.1	31行	2 P11	2.1.1	2行	3 P11	2.1.3	28行	4 P14	2.2.3	14行
1 P10	2.1.1	31行																
2 P11	2.1.1	2行																
3 P11	2.1.3	28行																
4 P14	2.2.3	14行																
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 建築設計業は、標準産業分類における業種として、サービス業に含まれている。</li> <li>2 フィジビリティスタディーとは、事業実施前に事業成立性の判断、投資に値するか否かの判断を行うための調査や事業収支計画をおこなうことである。</li> <li>3 設計施工一括請負方式とは、設計と施工を、設計事務所と建設会社が別々に受注する方式である。</li> <li>4 CASBEEとは、建築物を環境性能で評価し格付けする手法で、建築環境総合性能評価システムという。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>設計施工一括請負方式とは、建設会社が設計と施工を一括で請け負う方式である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り 2020年間8、×建設業を○サービス業に変えた</li> <li>2. 記載通り</li> <li>4. 記載通り</li> </ol>													



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	3 工事の発注・契約	項 目	3.4 契約方式	細 目	正答肢	2
問題	I - 9 契約方式に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。			【出典】 建築積算士ガイドブック		
				1 P28 3.4.1	29行	
				2 P28 3.4	21行	
				3 P28 3.4.1	37行	
				4 P29 3.4.2	12行	
【解答肢】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総価請負契約とは、総額を請負代金額として定める契約で、請負代金額未満で施工できた場合は差額を返還する必要がない。</li> <li>2 建築工事の請負契約のほとんどは、単価請負契約で実施されている。</li> <li>3 請負契約締結後の賃金水準または物価水準の変動により、請負代金額の変更について規定したスライド条項を適用することもある。</li> <li>4 GMP付き実費精算契約とは、請負者が工事費の最高限度額を保証して契約する方式で、限度額を超えた分は請負者が負担する。</li> </ol>			【解説】	<p>建築工事の請負契約のほとんどは、総価請負契約で実施されている。</p> <p>1. 記載通り 2012年間8、×変換するを○変換しないに変える</p> <p>3. 新規作成、ガイドブック文面記載通り</p> <p>4. 記載通り</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	4 設計図書	項 目	4.1 設計図書の構成	細 目	正答肢	4																
<p>問題 I - 10 設計図書に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1 P35</td> <td style="width: 5%;">4.1.5</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 35%; text-align: right;">23行</td> </tr> <tr> <td>2 P33</td> <td>4.1.1</td> <td></td> <td style="text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>3 P35</td> <td>4.1.3</td> <td></td> <td style="text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>4 P32</td> <td>4.1</td> <td></td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> </table>		1 P35	4.1.5		23行	2 P33	4.1.1		3行	3 P35	4.1.3		3行	4 P32	4.1		21行
1 P35	4.1.5		23行																			
2 P33	4.1.1		3行																			
3 P35	4.1.3		3行																			
4 P32	4.1		21行																			
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 標準仕様書は、使用する材料等の性能および品質、施工方法等を規定している。</li> <li>2 現場説明書とは、設計図書などで表示し難い設計条件、見積条件などを書面で示したものである。</li> <li>3 質問回答書は応札者からの質疑に発注者が回答するもので、優先順位が高い。</li> <li>4 公共建築工事標準仕様書においては、設計図書の中に数量計算書が含まれている。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>公共建築工事標準仕様書において、設計図書の中に数量計算書は含まれていない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規作成、ガイドブック文面記載通り</li> <li>2. 記載通り</li> <li>3. 記載通り</li> </ol>																	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.1 積算業務の流れ	細 目	正答肢	2																									
<p>問題 I-11</p> <p>建築積算業務の流れに関する次の記述について、A～Dの部分にあてはまる用語の組合せで、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <p>狭義の建築積算とは、設計図、標準仕様書、（ A ）などの設計図書等にもとづいて建築に関する数量を算出して（ B ）を算定することをいう。 はじめに、（ C ）や積算範囲などを確認した後に数量算出をおこなう。その後、各数量の集計をおこなってから内訳書を作成する。単価を入れて直接工事費を算出した後に共通費の算出をおこない、（ D ）を決定する。</p>					<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>P50 6.1</p> <p>建築積算業務の流れ</p>																										
<p>【解答肢】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 20%;">A</th> <th style="width: 20%;">B</th> <th style="width: 20%;">C</th> <th style="width: 20%;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特記仕様書</td> <td>工事価格</td> <td>積算要領</td> <td>工事費</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特記仕様書</td> <td>工事費</td> <td>積算要領</td> <td>工事価格</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>積算要領</td> <td>工事価格</td> <td>特記仕様書</td> <td>工事費</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>積算要領</td> <td>工事費</td> <td>特記仕様書</td> <td>工事価格</td> </tr> </tbody> </table>						A	B	C	D	1	特記仕様書	工事価格	積算要領	工事費	2	特記仕様書	工事費	積算要領	工事価格	3	積算要領	工事価格	特記仕様書	工事費	4	積算要領	工事費	特記仕様書	工事価格	<p>【 解 説 】</p> <p>狭義の建築積算とは、設計図、標準仕様書、<b>特記仕様書</b>などの設計図書等にもとづいて建築に関する数量を算出して<b>工事費</b>を算定することをいう。 建築積算業務は設計図書を受け取った段階から始まる。はじめに、<b>積算要領</b>や積算範囲などを確認した後に作業を分担し、仮設、躯体、仕上、設備等の数量算出をおこなう。その後、各数量の集計をおこなってから内訳書を作成する。さらに、単価を入れて直接工事費を算出した後に<b>共通仮設費</b>、現場管理費、一般管理費等の算出をおこない、<b>工事価格</b>を決定する。</p>	
	A	B	C	D																											
1	特記仕様書	工事価格	積算要領	工事費																											
2	特記仕様書	工事費	積算要領	工事価格																											
3	積算要領	工事価格	特記仕様書	工事費																											
4	積算要領	工事費	特記仕様書	工事価格																											

## 2022年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.15 内訳書の作成	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-12            工種別内訳書の特徴に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】            建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P178 6.15.2 (2) ①</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">40行</td> </tr> <tr> <td>2 P179 6.15.2 (2) ①</td> <td style="text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>3 P178 6.15.2 (2) ③</td> <td style="text-align: right;">42行</td> </tr> <tr> <td>4 P179 6.15.2 (2) ④</td> <td style="text-align: right;">1行</td> </tr> </table>		1 P178 6.15.2 (2) ①	40行	2 P179 6.15.2 (2) ①	3行	3 P178 6.15.2 (2) ③	42行	4 P179 6.15.2 (2) ④	1行
1 P178 6.15.2 (2) ①	40行													
2 P179 6.15.2 (2) ①	3行													
3 P178 6.15.2 (2) ③	42行													
4 P179 6.15.2 (2) ④	1行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 工事の施工プロセスに整合した科目順序である。</li> <li>2 部分別に価格が把握しやすい。</li> <li>3 専門工事会社別に細目が把握しやすくなる。</li> <li>4 現場の実行予算作成、資材の購入計画に便利である。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>部分別内訳書の説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.16 値入業務	細 目	正答肢	1
<p>問題 I-13 値入業務の注意点に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P183 6.16.2 (1)⑦           4行 2 P183 6.16.2 (2)②           19行 3 P184 6.16.2 (3)①           2行 4 P184 6.16.2 (5)③           24行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 溶接金網の材料費は、一般的には5%程度のロスを見込む。 2 高炉セメントには、割引単価があるので注意する。 3 基礎部の打放型枠は、地上部の打放型枠と普通型枠の差額で補正している。 4 化粧石膏ボードは、不燃仕様と準不燃仕様で単価差があるので仕様の明記が必要である。</p>					<p>【解説】</p> <p>溶接金網の材料費は、一般的には10%程度のロスを見込む。</p> <p>2. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 概算	細 目	正答肢	1								
<p>問題 I-14 工事費の概算手法に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P196 6.17.1</td> <td style="width: 30%;">5行</td> </tr> <tr> <td>2 P196 6.17.1</td> <td>8行</td> </tr> <tr> <td>3 P196 6.17.1</td> <td>9行</td> </tr> <tr> <td>4 P196 6.17.1</td> <td>16行</td> </tr> </table>		1 P196 6.17.1	5行	2 P196 6.17.1	8行	3 P196 6.17.1	9行	4 P196 6.17.1	16行
1 P196 6.17.1	5行													
2 P196 6.17.1	8行													
3 P196 6.17.1	9行													
4 P196 6.17.1	16行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 概算業務は、実際には各設計段階の情報量がプロジェクトごとに一定である。</li> <li>2 各設計段階において概算をおこない、設計内容とコストとのバランスなどを確認していくことが必要である。</li> <li>3 プロジェクトの全体スケジュールを勘案し、設計の進捗度に見合った情報量と必要な概算手法でおこなう必要がある。</li> <li>4 インプット（情報量）とアウトプット（成果品）のバランスが適切で過不足のない概算が不可欠である。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>積算業務は、実際には各設計段階の情報量がプロジェクトごとに異なり一定ではない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 概算	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-15 基本設計段階の概算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P199 6.17.3 (1)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">19行</td> </tr> <tr> <td>2 P201 6.17.3 (5)</td> <td style="text-align: right;">9行</td> </tr> <tr> <td>3 P200 6.17.3 (3)④</td> <td style="text-align: right;">37行</td> </tr> <tr> <td>4 P200 6.17.3 (3)④</td> <td style="text-align: right;">33行</td> </tr> </table>		1 P199 6.17.3 (1)	19行	2 P201 6.17.3 (5)	9行	3 P200 6.17.3 (3)④	37行	4 P200 6.17.3 (3)④	33行
1 P199 6.17.3 (1)	19行													
2 P201 6.17.3 (5)	9行													
3 P200 6.17.3 (3)④	37行													
4 P200 6.17.3 (3)④	33行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 そのまま実施設計に移行しても差異の少ない高い精度が求められる。</li> <li>2 内訳書式は一般的には、内訳書標準書式の工種別内訳書式を参考とし、部位別や部屋別、ゾーン（空間）別なども併用する場合が多い。</li> <li>3 この時点から、価格寄与度の高い項目はヒヤリングやメーカー見積を徴収する。</li> <li>4 雑物（ユニット物）は、図面に記載された内容以外にできるだけ想定も含めて算出する。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>基本計画段階や基本設計段階で使用する内訳書の書式は、第三者に理解しやすい書式とすることが重要、内訳書標準書式の部分別内訳書式を参考とし、部位別や部屋別、ゾーン（空間）別なども併用する場合が多い。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	5 工事費の構成	項 目	5.1 工事費種目	細 目	正答肢	1								
<p>問題 I-16 工事費の構成に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P40 5.1.2 表5.1</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">4行</td> </tr> <tr> <td>2 P40 5.1.2 表5.1</td> <td style="text-align: right;">5行</td> </tr> <tr> <td>3 P41 5.1.2 表5.2</td> <td style="text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>4 P42 5.1.2 表5.3</td> <td style="text-align: right;">11行</td> </tr> </table>		1 P40 5.1.2 表5.1	4行	2 P40 5.1.2 表5.1	5行	3 P41 5.1.2 表5.2	24行	4 P42 5.1.2 表5.3	11行
1 P40 5.1.2 表5.1	4行													
2 P40 5.1.2 表5.1	5行													
3 P41 5.1.2 表5.2	24行													
4 P42 5.1.2 表5.3	11行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 監理事務所および現場事務所の費用は、直接工事費に含まれる。</li> <li>2 仮囲いの費用は、共通仮設費に含まれる。</li> <li>3 工事施工に伴う補償費は、現場管理費に含まれる。</li> <li>4 建物、機械、装置等の維持修繕費は、一般管理費等に含まれる。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>監理事務所および現場事務所の費用は、共通仮設費に含まれる。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>									



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	9 市場価格	項 目	9.2 価格情報の収集方法と分析	細 目	正答肢	4								
<p>問題 I-17            価格情報の収集方法と分析に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】            建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P224 9.2.2</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">29行</td> </tr> <tr> <td>2 P224 9.2.2</td> <td style="text-align: right;">20行</td> </tr> <tr> <td>3 P225 9.2.3</td> <td style="text-align: right;">34行</td> </tr> <tr> <td>4 P226 9.2.3</td> <td style="text-align: right;">1行</td> </tr> </table>		1 P224 9.2.2	29行	2 P224 9.2.2	20行	3 P225 9.2.3	34行	4 P226 9.2.3	1行
1 P224 9.2.2	29行													
2 P224 9.2.2	20行													
3 P225 9.2.3	34行													
4 P226 9.2.3	1行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発注者が支払う契約価格に関する情報は少なく、積算価格と契約価格との乖離を客観的に説明することは困難である。</li> <li>2 実績値価格情報は、過去に施工した内訳書の科目別金額から延床面積等により、床面積当り等の単価を算定することが一般的である。</li> <li>3 建築工事費を時系列でその推移を示す主な指数として、建設工事費デフレーター、標準建築費指数、建設物価建築費指数がある。</li> <li>4 建築費指数値は、設計内容や施工条件、グレート、総工事費レベルの需要バランスなど、時点や地域間で異なる可能性のある変動要素を反映している。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>建築費指数値は、設計内容や施工条件、グレート、総工事費レベルでの需要バランスなど、時点や地域間で異なる可能性のある変動要素は反映されていない。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	9 市場価格	項 目	9.2 価格情報の収集方法と分析	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-18 内訳書に計上する価格情報に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P224 9.2.1</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">3行</td> </tr> <tr> <td>2 P224 9.2.1</td> <td style="text-align: right;">8行</td> </tr> <tr> <td>3 P223 9.2.1</td> <td style="text-align: right;">21、25行</td> </tr> <tr> <td>4 P223 9.2.1</td> <td style="text-align: right;">42行</td> </tr> </table>		1 P224 9.2.1	3行	2 P224 9.2.1	8行	3 P223 9.2.1	21、25行	4 P223 9.2.1	42行
1 P224 9.2.1	3行													
2 P224 9.2.1	8行													
3 P223 9.2.1	21、25行													
4 P223 9.2.1	42行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門工事会社などからの見積書は、実績値を分析して係数掛けし、見積金額を割り引く場合が通常である。</li> <li>2 歩掛りによる単価は、理論的に原価としての根拠は明確となるが、実勢価格と乖離する場合もある。</li> <li>3 価格調査機関が発行している掲載価格は、すべて見積書に直接使用することができる調査価格である。</li> <li>4 専門工事会社などからの見積書は、一般的には複数の会社から見積書を徴集して比較する。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>掲載価格は、主に見積書に直接使用することができる調査価格と、取引条件をより明確にすることにより値引きされる場合が多い公表価格とがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li>    <li>2. 記載通り。</li>    <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	10 チェックおよびデータ分析	項 目	10.2 歩掛りの活用	細 目	正答肢	4																														
<p>問題 I-19</p> <p>以下の建物概要における躯体数量歩掛表の事例について、(A)～(C)の欄に該当する躯体数量の組み合わせのうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">建物概要</p> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">建物用途</td> <td style="padding: 2px;">庁 舎</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">延面積</td> <td style="padding: 2px;">410㎡</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">構造・階数</td> <td style="padding: 2px;">RC造 2階建て</td> </tr> </table> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">躯体数量歩掛表</p> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="padding: 2px;">コンクリート(㎡/延㎡)</th> <th style="padding: 2px;">型枠(㎡/延㎡)</th> <th style="padding: 2px;">鉄筋(t/コンクリート㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px; text-align: center;">(A)</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">(B)</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">(C)</td> </tr> </tbody> </table> </div>					建物用途	庁 舎	延面積	410㎡	構造・階数	RC造 2階建て	コンクリート(㎡/延㎡)	型枠(㎡/延㎡)	鉄筋(t/コンクリート㎡)	(A)	(B)	(C)	<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P247 表10.4</td> <td style="width: 40%;">11、12、14行</td> </tr> <tr> <td>2 P247 表10.4</td> <td>11、12、14行</td> </tr> <tr> <td>3 P247 表10.4</td> <td>11、12、14行</td> </tr> <tr> <td>4 P247 表10.4</td> <td>11、12、14行</td> </tr> </table>		1 P247 表10.4	11、12、14行	2 P247 表10.4	11、12、14行	3 P247 表10.4	11、12、14行	4 P247 表10.4	11、12、14行										
建物用途	庁 舎																																			
延面積	410㎡																																			
構造・階数	RC造 2階建て																																			
コンクリート(㎡/延㎡)	型枠(㎡/延㎡)	鉄筋(t/コンクリート㎡)																																		
(A)	(B)	(C)																																		
1 P247 表10.4	11、12、14行																																			
2 P247 表10.4	11、12、14行																																			
3 P247 表10.4	11、12、14行																																			
4 P247 表10.4	11、12、14行																																			
<p>【解答肢】</p> <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(A)</th> <th style="text-align: center;">—</th> <th style="text-align: center;">(B)</th> <th style="text-align: center;">—</th> <th style="text-align: center;">(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">5.98</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.113</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.85</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0.85</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.113</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">5.98</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">5.98</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.85</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.113</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">0.85</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">5.98</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">0.113</td> </tr> </tbody> </table>						(A)	—	(B)	—	(C)	1	5.98	—	0.113	—	0.85	2	0.85	—	0.113	—	5.98	3	5.98	—	0.85	—	0.113	4	0.85	—	5.98	—	0.113	<p>【解説】</p> <p>表10.4より</p> <p>コンクリート 0.85(㎡/延㎡)</p> <p>型枠 5.98(㎡/延㎡)</p> <p>鉄筋 0.113(t/コンクリート㎡)</p> <p style="margin-top: 20px;">1. 記載は不適切。</p> <p style="margin-top: 20px;">2. 記載は不適切。</p> <p style="margin-top: 20px;">3. 記載は不適切。</p>	
	(A)	—	(B)	—	(C)																															
1	5.98	—	0.113	—	0.85																															
2	0.85	—	0.113	—	5.98																															
3	5.98	—	0.85	—	0.113																															
4	0.85	—	5.98	—	0.113																															

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	14 改修工事	項 目	14.2 改修工事の特徴	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-20 改修工事の特徴に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P316 14.2.1</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">23行</td> </tr> <tr> <td>2 P316 14.2.2</td> <td style="text-align: right;">30行</td> </tr> <tr> <td>3 P316 14.2.1</td> <td style="text-align: right;">24行</td> </tr> <tr> <td>4 P316 14.2.2</td> <td style="text-align: right;">38行</td> </tr> </table>		1 P316 14.2.1	23行	2 P316 14.2.2	30行	3 P316 14.2.1	24行	4 P316 14.2.2	38行
1 P316 14.2.1	23行													
2 P316 14.2.2	30行													
3 P316 14.2.1	24行													
4 P316 14.2.2	38行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全向上、設備更改、ICT対応等の改修を一度に合わせて実施されるケースも多い。</li> <li>2 改修工事では大規模改修工事の場合、俗に言う「居ながら工事」となる場合は少ない。</li> <li>3 小量な工事であっても、搬入や作業場の取り合い等の制約により作業が非常に複雑になり、コスト増となる場合もある。</li> <li>4 溶接工程や塗装工程がある場合は、臭いの問題等も生じるため、実施日の制限等でクリティカルパスが設定されるなど検討事項も多くなる。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>大規模改修工事であっても俗に言う「居ながら工事」となる場合が多い。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.14 設備の積算	細 目	正答肢	2
問題	I - 21 設備の数量の計測・計算に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。			【出典】 建築積算士ガイドブック		
				1 P170 6.14.1 (1)	3行	
				2 P170 6.14.1 (2)	5行	
				3 P170 6.14.1 (3)	6行	
				4 P170 6.14.1 (6)	15行	
【解答肢】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 計測・計算の数量は、内訳書による種目別、科目別、中科目別、細目別に区分して計測する。</li> <li>2 数量は、設計数量とする。ただし、根切り、埋め戻し等は、所要数量とする。</li> <li>3 数量は、設計図書に表示された寸法から計測・計算するが、計測器具（スケール等）で読み取り計測して算出することができる。</li> <li>4 内訳書の単価に対応する数量は、原則小数点以下第1位を四捨五入し、整数とする。</li> </ol>			【解説】	<p>数量は、設計数量とする。ただし、根切り、埋め戻し等は、計画数量とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.16 値入業務	細 目	正答肢	1								
<p>問題 I - 22 設備工事の値入方法に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P192 6.16.4 (2) ④</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">29行</td> </tr> <tr> <td>2 P192 6.16.4 (2) ⑤</td> <td style="text-align: right;">33行</td> </tr> <tr> <td>3 P192 6.16.4 (2) ⑥</td> <td style="text-align: right;">37行</td> </tr> <tr> <td>4 P193 6.16.4 (2) ⑦</td> <td style="text-align: right;">1行</td> </tr> </table>		1 P192 6.16.4 (2) ④	29行	2 P192 6.16.4 (2) ⑤	33行	3 P192 6.16.4 (2) ⑥	37行	4 P193 6.16.4 (2) ⑦	1行
1 P192 6.16.4 (2) ④	29行													
2 P192 6.16.4 (2) ⑤	33行													
3 P192 6.16.4 (2) ⑥	37行													
4 P193 6.16.4 (2) ⑦	1行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 消耗品雑材は材料費合計×率（10～15%程度）を乗じて算出する。</li> <li>2 試験調整費は工費×率（2～5%程度）を乗じて算出する。</li> <li>3 運搬費は材料費合計×率（1～3%程度）を掛けて算出する。</li> <li>4 現場雑費は内訳金額×率（5～10%程度）を乗じて算出する。</li> </ol>					<p>【 解 説 】</p> <p>消耗品雑材は材料費合計×率（2～5%程度）を乗じて算出する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.16 値入業務	細 目	正答肢	4								
<p>問題 I - 23 設備工事の専門工事に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P193 6.16.4 (2) ㊸</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">11行</td> </tr> <tr> <td>2 P193 6.16.4 (2) ㊸</td> <td style="text-align: right;">12行</td> </tr> <tr> <td>3 P193 6.16.4 (2) ㊸</td> <td style="text-align: right;">20行</td> </tr> <tr> <td>4 P177 6.14.2 (3) ㊱</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> </table>		1 P193 6.16.4 (2) ㊸	11行	2 P193 6.16.4 (2) ㊸	12行	3 P193 6.16.4 (2) ㊸	20行	4 P177 6.14.2 (3) ㊱	26行
1 P193 6.16.4 (2) ㊸	11行													
2 P193 6.16.4 (2) ㊸	12行													
3 P193 6.16.4 (2) ㊸	20行													
4 P177 6.14.2 (3) ㊱	26行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 機械設備として、自動制御設備は専門工事として扱う。</li> <li>2 機械設備として、消火設備は専門工事として扱う。</li> <li>3 電気設備として、中央監視設備は専門工事として扱う。</li> <li>4 電気設備として、受変電設備は専門工事として扱う。</li> </ol>					<p>【 解 説 】</p> <p>受変電設備は、電気設備の工事科目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>2. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	12 LCC (ライフサイクルコスト)	項 目	12.6 LCCとは	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-24                      建築の分野においてLCCを活用できる主な領域に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なものは</b>どれか。</p>					<p>【出典】                      建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P302 12.6 (1)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">16行</td> </tr> <tr> <td>2 P302 12.6 (2)</td> <td style="text-align: right;">17行</td> </tr> <tr> <td>3 P302 12.6 (3)</td> <td style="text-align: right;">18行</td> </tr> <tr> <td>4 P302 12.6 (4)</td> <td style="text-align: right;">19行</td> </tr> </table>		1 P302 12.6 (1)	16行	2 P302 12.6 (2)	17行	3 P302 12.6 (3)	18行	4 P302 12.6 (4)	19行
1 P302 12.6 (1)	16行													
2 P302 12.6 (2)	17行													
3 P302 12.6 (3)	18行													
4 P302 12.6 (4)	19行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業計画</li> <li>2 施工計画</li> <li>3 建築物運用維持保全</li> <li>4 地球環境保全</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>建築の分野においてLCCを活用できる主な領域としては、設計計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	15 環境配慮とコスト	項 目	15.1 建築物に係る環境関連等の社会的動向	細 目		正答肢	2
問題	I - 25 建築物における環境対策の取り組み方等の変化に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。				【 出 典 】 建築積算士ガイドブック		
					1 P320 15.1.1	35行	
					2 P320 15.1.1	35行	
					3 P320 15.1.1	35行	
					4 P320 15.1.1	35行	
【解答肢】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1970年代からは、公害対策や公害防止が目的の「公害対策型建築物」の始まり。</li> <li>2 1990年代からは、エネルギー等経費削減のための「長寿命化型建築物」が主流の時代。</li> <li>3 2000年代からは、新築建築物には環境対策を取り入れた「環境対策型建築物」が一般的となる。</li> <li>4 2010年代からは、地球温暖化への対策、環境経営時代への対応、資産価値向上のための「環境配慮型建築物」への戦略的な検討が必要な時代へ。</li> </ol>				【 解 説 】		
					1990年代からは、エネルギー等経費削減のための「省エネ型建築物」が主流の時代。		
					1. 記載通り。		
					3. 記載通り。		
					4. 記載通り。		

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	15 環境配慮とコスト	項 目	15.2 環境配慮計画	細 目	正答肢	3
問題 I - 26 環境配慮計画の検討時期に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。					<b>【出典】</b> 建築積算士ガイドブック  1 P322 15.2.1                      37行 2 P322 15.2.1                      38行 3 P322 15.2.1                      38行 4 P322 15.2.1                      37行	
<b>【解答肢】</b>  1 建築物の計画段階。  2 建築物の工事段階。  3 建築物の解体段階。  4 建築物の設計段階。					<b>【解説】</b>  環境配慮計画の検討時期は建築物の運用段階であり、解体段階ではない。  1. 記載通り。  2. 記載通り。  4. 記載通り。	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第1編 総則	細 目		正答肢	3
<p>問題 Ⅱ-1            建築数量積算基準の総則に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>						<p>【 出 典 】  <b>建築積算士ガイドブック</b></p> <p>1 P330 5 (1)            2 P330 6            3 P330 5 (4)            4 P330 5 (3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 長さ、面積、体積及び質量の単位はそれぞれ、m、m<sup>2</sup>、m<sup>3</sup>及びtとする。</p> <p>2 数量に対応する単価は、「内訳書標準書式」の工種別方式及び部分別方式における単価及び複合単価等とする。</p> <p>3 工事費内訳書の細目数量は、すべて小数点以下第1位が原則とする。</p> <p>4 計測寸法の単位はmとし、小数点以下第2位とする。</p>						<p>【 解 説 】</p> <p>工事費内訳書の細目数量は、小数点以下第1位とする。ただし、100以上の場合は整数とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4節 直接仮設の計測・計算	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ- 2 直接仮設の数量に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P332 2 (1) 2 P332 2 (2) 3 P332 2 (3) 2) 4 P333 2 (4) 3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 遣方の数量は、建築面積とする。</p> <p>2 墨出し面積は、延べ面積とする。</p> <p>3 地足場の数量は、延べ面積とする。</p> <p>4 小幅ネット（層間塞ぎ）の数量は、掛け長さ（掛けm）とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>地足場は根切り深さにより基礎工事のために設置されるもので、その数量は面積と建築面積とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第2節 土工の計測・計算	細 目	正答肢	2
<p>問題 Ⅱ- 3 土工・地業の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 <b>建築積算士ガイドブック</b></p> <p>1 P334 2 (2) 2 P333 1 1) 3 P334 1 4) 4 P334 1 5)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 根切りとは、基礎、地下構築物等を施工するための土の掘削をいう。</p> <p>2 山留め、排水等の計測・計算は、原則として所要数量とする。</p> <p>3 土砂量は地山数量とし、掘削による増加、締固めによる減少は考慮しない。</p> <p>4 土工について土工計画があるときは、原則としてその計画に基づいて計測・計算する。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>根切り、埋戻し、山留め、排水等の計測・計算は、原則として計画数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	2								
<p>問題 II-4                      コンクリート・型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>						<p>【出典】                      建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P337 2章 2節 1)</td> <td style="width: 30%;">33行目</td> </tr> <tr> <td>2 P338 2章 2節 1 (1) 1)</td> <td>5行目</td> </tr> <tr> <td>3 P338 2章 2節 1 (1) 3)</td> <td>8・9行目</td> </tr> <tr> <td>4 P338 2章 2節 1 (2) 6)</td> <td>26行目</td> </tr> </table>		1 P337 2章 2節 1)	33行目	2 P338 2章 2節 1 (1) 1)	5行目	3 P338 2章 2節 1 (1) 3)	8・9行目	4 P338 2章 2節 1 (2) 6)	26行目
1 P337 2章 2節 1)	33行目														
2 P338 2章 2節 1 (1) 1)	5行目														
3 P338 2章 2節 1 (1) 3)	8・9行目														
4 P338 2章 2節 1 (2) 6)	26行目														
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コンクリート部材は、コンクリートと型枠に区分し、計測・計算する。</li> <li>2 コンクリートの断面寸法は、小数点以下第2位まで計測・計算する。</li> <li>3 鉄骨によるコンクリートの欠除は、計測・計算した鉄骨の設計数量について7.85 tを1.0m<sup>3</sup>として換算した体積とする。</li> <li>4 大面木、化粧目地、打継ぎ目地、誘発目地等は計測・計算の対象とする。</li> </ol>						<p>【解説】</p> <p>コンクリートの断面寸法は、小数点以下第3位まで計測・計算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>3. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	3								
<p>問題 II-5 鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P340 3章 1 2)</td> <td style="width: 30%;">22・23行目</td> </tr> <tr> <td>2 P340 3章 1 5)</td> <td>28行目</td> </tr> <tr> <td>3 P340 3章 1 4)</td> <td>31行目</td> </tr> <tr> <td>4 P340 3章 1 9)</td> <td>37行目</td> </tr> </table>		1 P340 3章 1 2)	22・23行目	2 P340 3章 1 5)	28行目	3 P340 3章 1 4)	31行目	4 P340 3章 1 9)	37行目
1 P340 3章 1 2)	22・23行目													
2 P340 3章 1 5)	28行目													
3 P340 3章 1 4)	31行目													
4 P340 3章 1 9)	37行目													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 フープ、スタラップの長さは、それぞれ柱、基礎梁及び梁及び壁梁のコンクリートの断面の設計寸法による周長を鉄筋の長さとし、フックはないものとする。</li> <li>2 ガス圧接継手の加工のための鉄筋の長さの変化はないものとする。</li> <li>3 径の異なる鉄筋の継手は大径による継手とする。</li> <li>4 鉄筋について、その所要数量を求めるときは、その設計数量の4%の割増を標準とする。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>径の異なる鉄筋の継手は小径による継手とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記載通り。</li> <li>2. 記載通り。</li> <li>4. 記載通り。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	4
<p>問題 II-6 型枠各部分の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P339 2章 2節 2 (4) 2)      21行目 2 P339 2章 2節 2 (3) 2)      14行目 3 P339 2章 2節 2 (2) 2)      11行目 4 P339 2章 2節 2 (5) 2)      30行目</p>		
<p>【解答肢】</p> <p>1 床板の型枠の数量は、コンクリートの底面の面積とする。</p> <p>2 梁の型枠の数量で、ハンチのある場合の面積の伸びはないものとする。</p> <p>3 柱の型枠の数量は、コンクリートの側面の面積とする。</p> <p>4 壁の型枠の数量で、階段スラブによる壁の型枠の欠除は、接続部の面積が1.0㎡以下の箇所の型枠の欠除はないものとする。</p>					<p>【解説】</p> <p>4. 階段スラブによる壁の型枠の欠除はないものとする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>		



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	2								
<p>問題 II-7 鉄筋各部分の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P342 3章 2節 2 (4) 2)</td> <td style="width: 40%;">13行目</td> </tr> <tr> <td>2 P341 3章 2節 2 (1) 3)②</td> <td>12行目</td> </tr> <tr> <td>3 P341 3章 2節 2 (3) 2)</td> <td>42行目</td> </tr> <tr> <td>4 P341 3章 2節 2 (2) 2)</td> <td>30行目</td> </tr> </table>		1 P342 3章 2節 2 (4) 2)	13行目	2 P341 3章 2節 2 (1) 3)②	12行目	3 P341 3章 2節 2 (3) 2)	42行目	4 P341 3章 2節 2 (2) 2)	30行目
1 P342 3章 2節 2 (4) 2)	13行目													
2 P341 3章 2節 2 (1) 3)②	12行目													
3 P341 3章 2節 2 (3) 2)	42行目													
4 P341 3章 2節 2 (2) 2)	30行目													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 床板で、連続する床板の全長にわたる主筋の継手については、床板の長さが5.5mの場合は、1か所の継手があるものとする。</li> <li>2 単独基礎梁で、全長にわたる主筋の長さが5.5mの場合は、1か所の継手があるものとする。</li> <li>3 連続する梁の全長にわたる主筋の継手については、梁の長さが5.5mの場合は、1か所の継手があるものとする。</li> <li>4 柱で、主筋の継手は、基礎柱については基礎柱部分の主筋の長さが5.5mの場合は、1か所の継手があるものとする。</li> </ol>					<p>【解説】</p> <p>全長にわたる主筋の長さは、径13mm以下の鉄筋は6.0mごとに、径16mm以上の鉄筋は7.0mごとに継手がある。5.5mの場合は、継ぎ手はないものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 床板の長さが、4.5m以上9.0m未満は、1か所の継手があるものとする。</li> <li>3. 連続する梁の全長にわたる主筋の継手については、梁の長さが、5.0m以上10.0m未満は1か所の継手があるものとする。</li> <li>4. 基礎柱については基礎柱部分の主筋の長さが3.0m以上の場合は1か所の継手があるものとする。</li> </ol>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	3
<p>問題 II-8 柱の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P339 2章 2節 2 (2) 1)      9行目 2 P339 2章 2節 2 (2) 2)      11行目 3 P340 3章 2節 1 1)          20行目 4 P340 3章 2節 1 2)          22行目</p>		
<p>【解答肢】</p> <p>1 柱のコンクリートの数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積とする。</p> <p>2 柱の型枠の数量は、コンクリートの側面の面積とする。</p> <p>3 最上階柱の主筋については、設計図書等で指定された場合でもフックはないものとする。</p> <p>4 フープの長さは、柱のコンクリートの断面の設計寸法による周長を鉄筋の長さとし、フックはないものとする。</p>					<p>【解説】</p> <p>設計図書等で指定された場合はフックの長さを加える。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>		

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第2節 鉄骨の計測・計算 4節 耐火被覆等の計測・計算	第	細 目	正答肢	1
<p>問題 II-9 鉄骨の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>						<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P345 2) 2 P345 2 (2) 2) 3 P345 2 (2) 3) 4 P344 1 3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 耐火被覆の数量は、原則として鉄骨部材表面の面積とする。</p> <p>2 デッキプレートの外周や床開口周り等のコンクリート流れ止めプレートは、長さ（m）で計測・計算する。</p> <p>3 梁の継手接合に必要な、スプライスプレートは「あとの部分」の梁で計測・計算する。</p> <p>4 高力ボルトの長さは、接合する板厚による締め付け長さに「締め付け長さに加える長さ」（S）mmを加えた首下長さとする。</p>						<p>【解説】</p> <p>1. 耐火被覆の数量は原則として設計図書により耐火被覆材の厚さの中心の寸法により計測・計算した面積とする。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	4																				
<p>問題 Ⅱ-10 壁高さ及び壁仕上げ（ボード張り）とスタッド式軽量鉄骨間仕切の次の組合せのうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P150 6.11.7 (5)</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">35, 39行</td> </tr> <tr> <td>2 P150 6.11.7 (5)</td> <td style="text-align: right;">35, 40行</td> </tr> <tr> <td>3 P150 6.11.7 (5)</td> <td style="text-align: right;">36, 39行</td> </tr> <tr> <td>4 P150 6.11.7 (5)</td> <td style="text-align: right;">36, 40行</td> </tr> </table>		1 P150 6.11.7 (5)	35, 39行	2 P150 6.11.7 (5)	35, 40行	3 P150 6.11.7 (5)	36, 39行	4 P150 6.11.7 (5)	36, 40行												
1 P150 6.11.7 (5)	35, 39行																									
2 P150 6.11.7 (5)	35, 40行																									
3 P150 6.11.7 (5)	36, 39行																									
4 P150 6.11.7 (5)	36, 40行																									
<p>【解答肢】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">1 高さ3.6m</td> <td style="width: 5%;">—</td> <td style="width: 25%;">両面石膏ボード一重張り</td> <td style="width: 5%;">—</td> <td style="width: 50%;">65型 @300</td> </tr> <tr> <td>2 高さ4.0m</td> <td>—</td> <td>両面石膏ボード二重張り</td> <td>—</td> <td>65型 @450</td> </tr> <tr> <td>3 高さ4.2m</td> <td>—</td> <td>両面石膏ボード一重張り</td> <td>—</td> <td>90型 @300</td> </tr> <tr> <td>4 高さ4.6m</td> <td>—</td> <td>両面石膏ボード二重張り</td> <td>—</td> <td>90型 @450</td> </tr> </table>					1 高さ3.6m	—	両面石膏ボード一重張り	—	65型 @300	2 高さ4.0m	—	両面石膏ボード二重張り	—	65型 @450	3 高さ4.2m	—	両面石膏ボード一重張り	—	90型 @300	4 高さ4.6m	—	両面石膏ボード二重張り	—	90型 @450	<p>【 解 説 】</p> <p>スタッドが90型の場合は高さ4.5m以下。 高さ4.6mの場合は100型になる。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	
1 高さ3.6m	—	両面石膏ボード一重張り	—	65型 @300																						
2 高さ4.0m	—	両面石膏ボード二重張り	—	65型 @450																						
3 高さ4.2m	—	両面石膏ボード一重張り	—	90型 @300																						
4 高さ4.6m	—	両面石膏ボード二重張り	—	90型 @450																						

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-11 間仕切下地の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【出典】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P347 1章 2節 2 (4) 2 P346 1章 2節 2 (3) 1) 3 P346 1章 2節 2 (2) 1) 4 P346 1章 2節 2 (1)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 スタッ式軽量鉄骨間仕切は、スタッド幅及びスタッド間隔ごとに区分して計測・計算する。</p> <p>2 木材による間仕切下地は、原則として木材の体積を数量とする。</p> <p>3 ALCパネル、押出成形セメント板、PC板は、面積または設計寸法による枚数を数量とする。</p> <p>4 躯体として計測しないコンクリート間仕切り（がりょう等）は、面積又は箇所数を数量とする。</p>					<p>【解説】</p> <p>原則として面積を数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	1
<p>問題 Ⅱ-12 仕上の構成に関する次の組合せのうち、<b>最も不適切なものはどれか。</b></p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P348 2章 2節 1 (3) 4) 2 P348 2章 2節 1 (3) 2) 3 P348 2章 2節 1 (3) 1) 4 P348 2章 2節 1 (3) 3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 仕上下地      —      床のコンクリート躯体</p> <p>2 主仕上        —      床のビニルシート</p> <p>3 表面処理     —      壁のビニルクロス</p> <p>4 附合物       —      回縁</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>仕上下地とは、主仕上と躯体又は準躯体との中間層をいう。</p> <p>2. 記載通り。 P115 図6.60参照</p> <p>3. 記載通り。 P115 図6.60参照</p> <p>4. 記載通り。 P115 6.6.4 (7)参照</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	4
<p>問題 Ⅱ-13                      金属製建具類の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】                      建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P352 2章 2節 3 (10) 1)                      2 P352 2章 2節 3 (10) 2)                      3 P352 2章 2節 3 (10) 3)                      4 P352 2章 2節 3 (10) 5)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 表面処理、主仕上、附合物、仕上下地及び粹類を複合したユニットとし、建具類の符号及びサイズ別の箇所数を数量とする。</p> <p>2 塗装等の表面処理については、適切な統計値又は係数値によることができる。</p> <p>3 附合物のうち特殊な建具金物等については、その規格、仕様等ごとの組数又は箇所数を数量とする。</p> <p>4 強化ガラス、アクリル等による建具類は、原則として材種を明記し、その面積を数量とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>金属製建具と同様、材種を明記し、符号及びサイズ別の箇所数を数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	1
<p>問題 Ⅱ-14                      金属材の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】                      建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P351 2章 2節 3 (7) 4)                      2 P351 2章 2節 3 (7) 5)                      3 P351 2章 2節 3 (7) 5)                      4 P351 2章 2節 3 (7) 7)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 屋根の主仕上は、原則として軒先等までの設計寸法による面積とし、開口部による欠除はないものとする。</p> <p>2 天井の骨組下地は、躯体からの「ふところ」寸法及び野縁等の仕様により区分し、その主仕上の数量による。</p> <p>3 天井インサートは、原則としてその主仕上の数量とする。</p> <p>4 メタルラス、ワイヤラス等の下地材は、原則としてその主仕上の数量による。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>開口部の面積を差し引いた面積を数量とする。ただし、開口部の面積が1か所当たり0.5㎡以下のときには、その主仕上の欠除はないものとする。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第6編 屋外施設等	細 目	正答肢	2
<p>問題 Ⅱ-15 屋外施設の区分と項目の次の組合せのうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>					<p>【 出 典 】 建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P354 2章 2節 2 (3) 2 P354 3章 3 P353 1章 4 P354 4章</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 構内舗装      —      区画線</p> <p>2 屋外排水      —      汚水排水管</p> <p>3 囲障           —      門扉</p> <p>4 植栽           —      地被</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>屋外排水は、建物からの雨水排水及び構内の雨水排水を対象とし、汚水排水は対象外。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第7編 改修	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ-16</p> <p>改修工事の整理清掃後片付けの計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p>						<p>【 出 典 】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P356 1章 2節 2 (2) 1)</p> <p>2 P356 1章 2節 2 (2) 2)</p> <p>3 P356 1章 2節 2 (2) 3)</p> <p>4 P356 1章 2節 2 (2) 4)</p>
<p>【解答肢】</p> <p>1 防水改修では、改修防水層の平場面積を数量とする。</p> <p>2 外壁改修では、改修する外壁面の水平長さに2.0mを乗じた面積を数量とする。</p> <p>3 外部の建具改修で、建具のみを改修する場合には、建具幅に2.0mを乗じた面積を数量とする。</p> <p>4 内装改修で天井を改修する場合は、改修する部分の天井面積を数量とする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>外部建具の場合は建具幅に1.0mを乗じた面積とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	



## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目		細 目		正答肢	2
-----	----------	-----	--	-----	--	-----	---

問題 Ⅱ-18

下図の壁(W18)の各数量として次のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

**【解答肢】**

- 1 縦筋の1本当りの長さは、4.30mである。
- 2 縦筋の数量は、210.70mである。
- 3 横筋の1本当りの長さは、4.20mである。
- 4 横筋の数量は、193.20mである。

**【出典】**

建築数量積算基準

P.342 3章 2節 2 (5) 1)

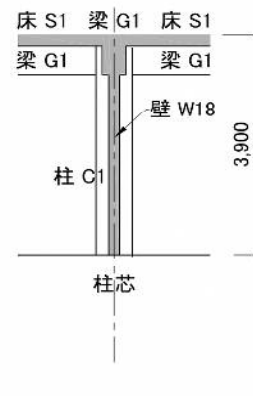
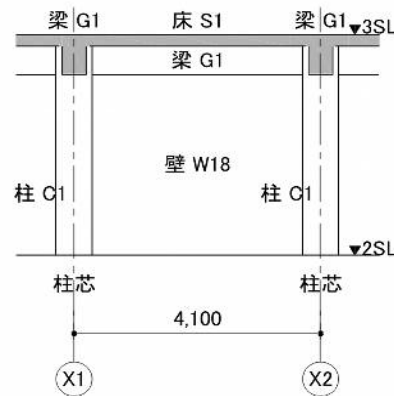
**【 図 】**

**【部材リスト】**(単位mm)

	柱	梁	床	壁
記号	C1	G1	S1	W18
寸法	600×600	W400×H700	厚 200	厚 180

**【壁 W18配筋】**

配筋	タテ・ヨコ D10@150 ダブル
定着長さ	0.35m
継手長さ	0.40m



**【解説】**

2 1本長さ

$$3.20 + 0.35 \times 2 + 0.40 = 4.30 \text{ m}$$

本数

$$3.50 \div 0.15 = 23.33 \rightarrow 24 + 1 \text{ 本}$$

鉄筋長さ

$$4.30 \times 25 \times 2 = 215.00 \text{ m が正となります。}$$

選択肢の解答は、

1本長さ

$$3.20 + 0.35 \times 2 + 0.40 = 4.30 \text{ m}$$

本数

$$(3.50 \div 0.15 + 1) \times 2 = 48.67 \rightarrow 49 \text{ 本}$$

本数計算にて、切上げの処理を行う方法が間違い。

鉄筋長さ

$$4.30 \times 49 = 210.70 \text{ m}$$

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	細 目	正答肢	3																			
<p>問題 Ⅱ-19 下図の床(S1)の、コンクリート数量(m3)として、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <p>【解答肢】</p> <p style="margin-left: 20px;">(m3)</p> <p>1    3.36</p> <p>2    3.32</p> <p>3    3.24</p> <p>4    3.18</p>				<p>【出典】 建築数量積算基準</p> <p style="margin-left: 20px;">P.339 2章 2節 2 (4) 1)</p>																				
<p>【部材リスト】(単位mm)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 15%;">柱</td> <td style="width: 15%;">梁</td> <td style="width: 15%;">梁</td> <td style="width: 15%;">床</td> </tr> <tr> <td>記号</td> <td>C1</td> <td>G1</td> <td>G2</td> <td>S1</td> </tr> <tr> <td>寸法</td> <td>900×900</td> <td>W400×H800</td> <td>W500×H800</td> <td>厚 150</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 20px;">【開口部リスト】(単位mm)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 15%;">開口</td> </tr> <tr> <td>寸法</td> <td>800×1,000</td> </tr> </table>					柱	梁	梁	床	記号	C1	G1	G2	S1	寸法	900×900	W400×H800	W500×H800	厚 150		開口	寸法	800×1,000		
	柱	梁	梁	床																				
記号	C1	G1	G2	S1																				
寸法	900×900	W400×H800	W500×H800	厚 150																				
	開口																							
寸法	800×1,000																							
<p>【 図 】</p> <div style="text-align: center;"> <p style="margin-left: 20px;">柱芯・梁芯</p> <p style="margin-left: 20px;">柱 C1</p> <p style="margin-left: 20px;">梁 G2</p> <p style="margin-left: 20px;">梁 G1</p> <p style="margin-left: 20px;">開口</p> <p style="margin-left: 20px;">床 S1</p> <p style="margin-left: 20px;">柱 C1</p> <p style="margin-left: 20px;">梁 G2</p> <p style="margin-left: 20px;">柱 C1</p> <p style="margin-left: 20px;">6,000</p> <p style="margin-left: 20px;">4,500</p> <p style="margin-left: 20px;">伏図(mm)</p> </div>				<p>【解説】</p> <p>3 ヨコ方向    <math>6.00 - 0.40 / 2 \times 2 = 5.60 \text{ m}</math></p> <p>タテ方向    <math>4.50 - 0.50 / 2 \times 2 = 4.00 \text{ m}</math></p> <p>開口    <math>0.80 \times 1.00 = 0.8 \text{ m}^2 \dots \text{減算}</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>5.60 \times 4.00 \times 0.15 = 3.36</math></p> <p style="margin-left: 20px;">▲ <math>0.80 \times 1.00 \times 0.15 = \text{▲}0.12</math></p> <p style="margin-left: 40px;">計 3.24 m<sup>3</sup></p>																				

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	細 目	正答肢	4						
<p>問題 Ⅱ-20                      下図の①～④における梁の全長にわたる主筋の継手の数量のうち、最も<b>不適切なもの</b>はどれか。</p>				<p>【出典】                      建築数量積算基準                       P.340 3章 2節 1 4)                      P.341-342 3章 2節 2 (3) 2)</p>							
<p>【解答肢】</p> <p>1      ①- 1.0か所                      2      ②- 無し                      3      ③- 2.5か所                      4      ④- 2.5か所</p>		<p>【凡例】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">鉄筋径は、D22とする。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◆</td> <td>圧接 1か所</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◇</td> <td>圧接 0.5か所</td> </tr> </table>		鉄筋径は、D22とする。		◆	圧接 1か所	◇	圧接 0.5か所	<p>【解説】</p> <p>4 連続する基礎梁の全長にわたる主筋の継手については、梁の長さが、5.0m未満は0.5か所、5.0m以上10.0m未満は1か所、10.0m以上は2か所あるものとする。</p> <p>よって、設問④ 左側の梁については梁長さ 10.0mなので、2か所が正となり全体では、3.0か所が正となります。</p>	
鉄筋径は、D22とする。											
◆	圧接 1か所										
◇	圧接 0.5か所										
<p>【図】</p>		<p style="text-align: center;">軸組図(mm)</p>									

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	細 目	正答肢	1																																
<p>問題 II-21                      下図の鉄骨溶接H形鋼梁のL=5,000 1台の溶接長さ（すみ肉6mm換算）（m）として、<b>最も適切なもの</b>はどれか。溶接換算表を用いて計算しなさい。</p>																																					
<p>【解答肢】</p> <p style="margin-left: 20px;">(m)</p> <p>1            67.20</p> <p>2            114.90</p> <p>3            134.40</p> <p>4            229.80</p>																																					
<p>【出典】                      建築積算ガイドブック</p> <p style="margin-left: 20px;">第4編 躯体                      第4章 鉄骨                      第2節 鉄骨の計測・計算</p>																																					
<p>【図】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>BH-900×400×22×28</p> <p>断面図(mm)</p> </div> <div> <p>溶接換算表(すみ肉6mm換算)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">溶接換算率 </th> </tr> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">(両面すみ肉溶接)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">t(mm)</th> <th style="text-align: center;">K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">18</td><td style="text-align: center;">4.81</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">19</td><td style="text-align: center;">4.81</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">20</td><td style="text-align: center;">5.73</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">21</td><td style="text-align: center;">6.72</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">22</td><td style="text-align: center;">6.72</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">23</td><td style="text-align: center;">7.79</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">24</td><td style="text-align: center;">7.79</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">25</td><td style="text-align: center;">8.95</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26</td><td style="text-align: center;">10.18</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">27</td><td style="text-align: center;">10.18</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">28</td><td style="text-align: center;">11.49</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">29</td><td style="text-align: center;">11.49</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">30</td><td style="text-align: center;">12.88</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>						溶接換算率		(両面すみ肉溶接)		t(mm)	K	18	4.81	19	4.81	20	5.73	21	6.72	22	6.72	23	7.79	24	7.79	25	8.95	26	10.18	27	10.18	28	11.49	29	11.49	30	12.88
溶接換算率																																					
(両面すみ肉溶接)																																					
t(mm)	K																																				
18	4.81																																				
19	4.81																																				
20	5.73																																				
21	6.72																																				
22	6.72																																				
23	7.79																																				
24	7.79																																				
25	8.95																																				
26	10.18																																				
27	10.18																																				
28	11.49																																				
29	11.49																																				
30	12.88																																				
<p>【解説】</p> <p>溶接は原則として種類に区分し、溶接断面形状度とに長さを求め、すみ肉溶接脚長6mmに換算した延べ長さを数量とする。</p> <p style="margin-left: 20px;">長さ            箇所数            換算率K</p> <p style="margin-left: 20px;">5.00m ×        2箇所 ×        6.72 =        67.20m</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>溶接換算表(すみ肉6mm換算)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">溶接換算率 </th> </tr> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">(両面すみ肉溶接)</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">t(mm)</th> <th style="text-align: center;">K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">18</td><td style="text-align: center;">4.81</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">19</td><td style="text-align: center;">4.81</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">20</td><td style="text-align: center;">5.73</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">21</td><td style="text-align: center;">6.72</td></tr> <tr style="border: 2px solid black;"><td style="text-align: center;">22</td><td style="text-align: center;">6.72</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">23</td><td style="text-align: center;">7.79</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">24</td><td style="text-align: center;">7.79</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">25</td><td style="text-align: center;">8.95</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26</td><td style="text-align: center;">10.18</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">27</td><td style="text-align: center;">10.18</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">28</td><td style="text-align: center;">11.49</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">29</td><td style="text-align: center;">11.49</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">30</td><td style="text-align: center;">12.88</td></tr> </tbody> </table> </div>						溶接換算率		(両面すみ肉溶接)		t(mm)	K	18	4.81	19	4.81	20	5.73	21	6.72	22	6.72	23	7.79	24	7.79	25	8.95	26	10.18	27	10.18	28	11.49	29	11.49	30	12.88
溶接換算率																																					
(両面すみ肉溶接)																																					
t(mm)	K																																				
18	4.81																																				
19	4.81																																				
20	5.73																																				
21	6.72																																				
22	6.72																																				
23	7.79																																				
24	7.79																																				
25	8.95																																				
26	10.18																																				
27	10.18																																				
28	11.49																																				
29	11.49																																				
30	12.88																																				

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	2
<p>問題 Ⅱ-22                      下図の天井化粧石膏ボード張りの数量(m<sup>2</sup>)として次のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <p>【解答肢】</p> <p style="padding-left: 20px;">(m<sup>2</sup>)</p> <p>1 41.19</p> <p>2 40.59</p> <p>3 39.63</p> <p>4 39.03</p>					<p>【出典】                      建築積算士ガイドブック</p> <p>第2章 仕上                      第2節 仕上の計測・計算                      2 主仕上の計測・計算                      (1) 計測・計算する寸法                      (2) 欠除部分の処理                      1) 各部分の取合による欠除                      2) 器具類による欠除</p>	
<p>【 図 】</p> <p style="text-align: center;">天井伏図(mm)</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>P349                      ・天井又は床部分の柱小口等で、その面積が1か所当たり0.5m<sup>2</sup>以下のときは、その部分の仕上の欠除は原則としてないものとする。                      ・器具の類による各部分の仕上の欠除が1か所当たり0.5m<sup>2</sup>以下のときは、その欠除は原則としてないものとする。                      ※エアコンとカーテンBOXは0.5m<sup>2</sup>を超えるので差引く。</p> $7.00 \times 6.00 - 0.90 \times 0.90 - 0.20 \times 3.00 = 40.59 \text{ m}^2$	



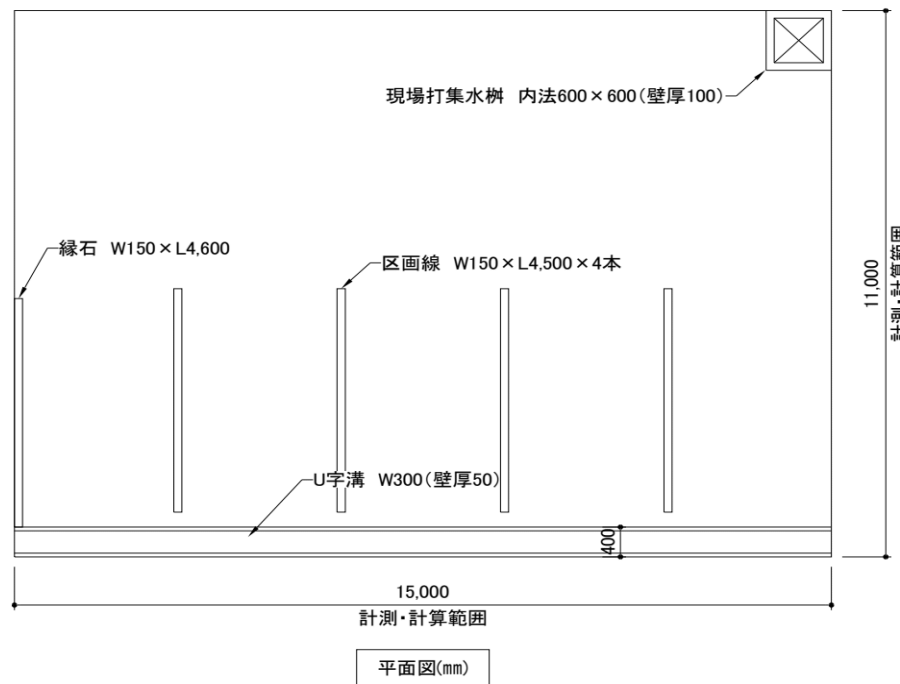
## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	3
<p>問題 II-23                      下図の建具のガラスシーリングの数量(m)として次のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。                      シーリングは両面シールとする。</p> <p>【解答肢】</p> <p style="padding-left: 20px;">(m)</p> <p>1 26.80</p> <p>2 27.04</p> <p>3 27.20</p> <p>4 27.44</p>					<p>【出典】                      建築積算士ガイドブック</p> <p>第2章 仕上                      第2節 仕上の計測・計算                      3 材種による特則                      (11) ガラス材                      1)、7)</p>	
<p>【 図 】</p> <p style="text-align: center;">建具姿図(mm)</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>P. 352                      1) 全面がガラスである建具類のガラスの数量は、内法寸法による面積を数量とする。ただし、方立、棧等の見付幅が0.1mを超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。                      7) シーリング等の計測・計算は、ガラスの設計寸法に基づく周長を数量とする。また、シーリング等で両面シールの場合、両面周長（片面周長×2）とする。                      ※見付け幅0.1m以下の方立ては差し引かない。</p> <p style="text-align: center;"> <math>(1.90 \times 2 + 1.20 \times 6 + 0.50 \times 2 + 0.80 \times 2) \times 2</math>  <math>= 27.20\text{m}</math> </p>	

## 2022年度建築積算士学科試験問題

### Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第6編 屋外施設等	細 目	正答肢	4
<p>問題 Ⅱ-24</p> <p>下図の駐車場において、図に示す範囲のアスファルト舗装の面積(m<sup>2</sup>)として次のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。ただし、区画線はペイント式とする。</p> <p>【解答肢】</p> <p style="padding-left: 20px;">(m<sup>2</sup>)</p> <p>1 159.00</p> <p>2 158.36</p> <p>3 158.31</p> <p>4 157.67</p>					<p>【出典】</p> <p>建築積算士ガイドブック</p> <p>第2章 構内舗装</p> <p>第2節 構内舗装の計測・計算</p> <p>1 通則</p> <p>(1)</p>	
<p>【 図 】</p> 					<p>【解説】</p> <p>P354</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縁石、排水側溝等の幅が0.05mを超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。</li> <li>・排水柵等の面積が1か所当たり0.5m<sup>2</sup>以下のときは、その欠除は原則としてないものとする。</li> </ul> <p>※集水柵は壁を加えると800×800の為、欠除の対象となる。</p> $15.00 \times (11.00 - 0.40) - 0.15 \times 4.60 - 0.80 \times 0.80$ $= 157.67 \text{ m}^2$	